

# 日本透析医会雑誌の発刊とその歩み

原田孝司

key words : 日本透析医会雑誌

## 要 旨

日本透析医会の設立に伴い日本透析医会雑誌が 1985 年に発刊された。1988 年には国立国会図書館に登録され、B5 判から A4 判に変更になり、2011 年からはカラー印刷が導入された。医会誌の発刊数は、現在約 1,200 部である。1987 年には広報委員会（2017 年 4 月から会誌編集委員会に名称変更）が組織され、日本透析医会雑誌の編集会議が年 3 回定期的に行われている。医会雑誌の目次は、現在、巻頭言から始まり、医療制度・医療経済、医療安全対策、実態調査、臨床と研究、公募研究助成論文・報告書、各支部での特別講演の抄録掲載、メディカル・エッセイ、神田秘帖、透析医のひとりごと、支部だより、学会案内からなっている。それぞれ目次内容に関して概説した。この日本透析医会雑誌は、日本透析医会のホームページにアクセスして閲覧できることになっている。

## はじめに

昭和 54 年（1979 年）に、透析医療の向上や社会福祉の増進に貢献する目的で「都道府県透析医会連合会」が設立され、その後事業実績を一層明確にするために「日本透析医会」が設立された。その折に、日本透析医会雑誌が昭和 60 年（1985 年）に発刊された（当時の日本透析医会会長：稲生綱政先生の「発刊にあたって」より）。発刊からの歩みについて概説する。

## 1 発刊の歴史

昭和 60 年 10 月 30 日（1985 年）に、日本透析医会雑誌第 1 巻 1 号が B5 判で発刊された。雑誌の英文名は The Journal of The Japan Clinical Dialysis であった。1988 年には国際標準逐次刊行物番号（International Standard Serial Number; ISSN）を得て、ISSN 日本センター国立国会図書館に登録された（ISSN 0914-7136）。1989 年第 14 巻 1 号からは、日本透析医会雑誌の英文名は The Journal of Japanese Association Dialysis Physician に変更になった。2000 年第 15 巻 1 号からは B5 判から A4 判に変更になり、ロゴマークとしては、平成 3 年に日本透析医会災害対策として、患者個人登録と災害時カード（透析登録証）発行のさいに使用するために作製されたものを引用して、日本透析医会雑誌のロゴマークとしてデザインされ表紙に使われるようになった。2011 年第 26 号 1 号からはカラー印刷が導入された。

医会雑誌の発刊数の推移を表 1 に示す。現在、医会雑誌の配布は、医会施設会員：約 920 部、個人会員：約 200 部、その他、国立国会図書館、厚生労働省関係課、関係団体（日医、医学会、日臨工、医療機器・製薬メーカー（当会に寄付がある）、医会雑誌執筆者に約 100 部配布されている。

## 2 広報委員会（会誌編集委員会）

昭和 62 年（1987 年）には広報委員会（平成 29 年 4 月から透析医会誌編集委員会に名称変更）が組織され、

表 1 透析会誌配布数の推移

年度末現在	施設会員（施設長・ 公的施設勤務）	個人（左の同一施設 勤務医）	計	発刊部数/号
昭和 62.7（設立時）	382	135	517	
昭和 62	655	160	815	1,000
昭和 63	762	173	935	1,100
平成 1	771	174	945	1,100
平成 2	796	181	977	1,100
平成 3	813	183	996	1,100
平成 4	832	184	1,016	1,200
平成 5	839	190	1,029	1,200
平成 6	861	192	1,053	1,200
平成 7	879	196	1,075	1,200
平成 8	891	201	1,092	1,300
平成 9	901	201	1,102	1,300
平成 10	919	205	1,124	1,300
平成 11	938	206	1,144	1,300
平成 12	960	215	1,175	1,300
平成 13	985	217	1,202	1,400
平成 14	1,000	222	1,222	1,400
平成 15	1,030	227	1,257	1,400
平成 16	1,040	234	1,274	1,400
平成 17	1,029	227	1,256	1,400
平成 18	1,013	227	1,240	1,400
平成 19	997	227	1,224	1,400
平成 20	988	229	1,217	1,400
平成 21	974	226	1,200	1,400
平成 22	964	220	1,184	1,300
平成 23	964	222	1,186	1,300
平成 24	955	216	1,171	1,300
平成 25	937	210	1,147	1,300
平成 26	923	199	1,122	1,300
平成 27	923	200	1,123	1,300
平成 28	920	194	1,114	1,300

日本透析医会雑誌の編集会議が年 3 回定期的に行われている。

編集委員会の歴代の委員長は、長谷川辰壽先生、奥田健二先生、飯田喜俊先生、久保和雄先生が引き継がれ、副委員長は、太田裕祥先生、飯田喜俊先生、久保和雄先生、鈴木正司先生、甲田豊先生に引き継がれている。担当理事は、山崎親雄先生、鈴木正司先生、杉崎弘章先生、篠田敏雄先生、山川智之先生に引き継がれている。その他多くの委員の先生方のご協力により、現在の透析医会雑誌に育ってきた（表 2）。

### 3 医会雑誌の目次区分

医会雑誌の目次区分は、発刊当初に比し、会員に種々の最新情報をタイムリーに正確に提供するために多くの項目が追加された。現在は、巻頭言から始まり、医療制度・医療経済、医療安全対策、実態調査、臨床

と研究、公募研究助成論文・報告書、各支部での特別講演の抄録掲載、メディカル・エッセイ、透析医のひとりごと、支部だより、学会案内からなっている（表 3）。そのほかに医会総会資料と決定事項や事業計画および予算も掲載している。

目次の中で医療制度・医療経済では、透析保険審査委員懇談会報告や透析診療報酬改定の度にその解説が掲載されている。医療安全対策では、災害時対策として 1995 年の阪神淡路大震災をはじめとして、2011 年の東日本大震災・福島第一原子力発電所事故、2016 年の熊本地震など、各地で発生した地震や豪雨・豪雪の災害時情報ネットワーク活動報告が掲載された。感染安全対策としては、B 型ウイルスや C 型肝炎ウイルス集団感染報告や、結核感染や新型インフルエンザ感染対策などの報告が掲載された。医療事故では日本透析医会事故調査委員会報告を掲載した。実態調査で

表2 広報委員会\*歴代名簿

太字は新規就任, 斜体文字は異動, ゴチックは再就任を示す

	昭和 62~ 63 年度	平成 1~ 2 年度	平成 3~ 4 年度	平成 5~ 6 年度	平成 7~ 8 年度	平成 9~ 10 年度	平成 11~ 12 年度	平成 13~ 14 年度
委員長	長谷川辰寿	長谷川辰寿	長谷川辰寿	奥田健二	奥田健二	奥田健二	飯田喜俊	久保和雄
副委員長	太田裕祥	太田裕祥	太田裕祥			飯田喜俊	久保和雄	飯田喜俊
担当理事				山崎親雄	山崎親雄	山崎親雄	山崎親雄	鈴木正司
					寺尾尚民	寺尾尚民		
委員	井上 隆 坂井瑠実	井上 隆 坂井瑠実	井上 隆 坂井瑠実 土屋 隆 吉田豊彦	井上 隆 坂井瑠実 土屋 隆 松田鈴夫 吉田豊彦	寺袖一徳 井上 隆 土屋 隆 松田鈴夫 吉田豊彦	秋葉 隆 井上 隆 土屋 隆 寺袖一徳 村山直樹 吉田豊彦	小野利彦 小出桂三 坂井瑠実 鈴木正司 関野 宏 原田孝司 頼岡徳在	小野利彦 小出桂三 坂井瑠実 関野 宏 原田孝司 頼岡徳在
	平成 15~ 16 年度	平成 17~ 18 年度	平成 19~ 20 年度	平成 21~ 22 年度	平成 23~ 24 年度	平成 25~ 26 年度	平成 27~ 28 年度	平成 29~ 30 年度
委員長	久保和雄	久保和雄	久保和雄	久保和雄	久保和雄	久保和雄	久保和雄	久保和雄
副委員長	鈴木正司	鈴木正司	鈴木正司	鈴木正司	鈴木正司	鈴木正司	鈴木正司	甲田 豊
担当理事	杉崎弘章	杉崎弘章	杉崎弘章	杉崎弘章 青木 正	杉崎弘章 青木 正	杉崎弘章	篠田俊雄	山川智之
委員	大平整爾 小野利彦 北本 清 坂井瑠実 関野 宏 奈倉勇爾 原田孝司 頼岡徳在	大平整爾 小野利彦 北本 清 坂井瑠実 佐藤寿伸 佐藤寿伸 奈倉勇爾 原田孝司 頼岡徳在 山川智之	青木 正 大平整爾 坂井瑠実 佐藤寿伸 奈倉勇爾 原田孝司 頼岡徳在 山川智之	大平整爾 坂井瑠実 佐藤寿伸 奈倉勇爾 原田孝司 山川智之	大平整爾 坂井瑠実 佐藤寿伸 奈倉勇爾 原田孝司 山川智之	秋澤忠男 岩元則幸 大平整爾 坂井瑠実 佐藤寿伸 原田孝司 山川智之	岩元則幸 大平整爾 久野 勉 坂井瑠実 佐藤寿伸 原田孝司 山川智之	今田直樹 大平整爾 久野 勉 佐藤寿伸 篠田俊雄 原田孝司

\*平成 29 年 4 月 1 日～ 会誌編集委員会に名称変更

表3 目次区分

巻頭言
医療制度・医療経済
医療安全対策
感染対策
医療事故
実態調査
臨床と研究
公募研究助成
各支部での特別講演 講演抄録
透析医のひとりごと
メディカル・エッセイ
神田秘帖
支部だより
学会案内
透析医療における consensus conference : 1995~2017
透析医療における Current Topics : 2001~2017

は透析医療費実態調査報告を定期的に掲載している。種々の課題を取り上げてその実態調査の結果を掲載している。各支部における実態調査の結果も報告しても

らっている。

臨床と研究では、いろいろなテーマで、特にトピックスになっている分野のエキスパートに論文執筆をお願いして掲載している。臨床と研究として執筆して頂いたテーマを図1に示す。依頼した論文のテーマで多いのは、薬剤、CKD-MBD、アクセス、腎性貧血、糖尿病、栄養、移植、腹膜透析、末梢動脈疾患、高血圧であった。公募研究助成論文としては、公募研究助成委員会で採択された研究の成果報告として論文を掲載しているが、研究助成件数は年とともに増加し、2016年は16件であった。

透析医会からの補助による各支部での特別講演はその抄録を掲載させてもらっている。メディカル・エッセイおよび神田秘帖には卓越した先生に執筆を頂いている。透析医のひとりごとは、日本の透析医療を牽引され、透析療法の経験が豊富な先生方に示唆に富むエ

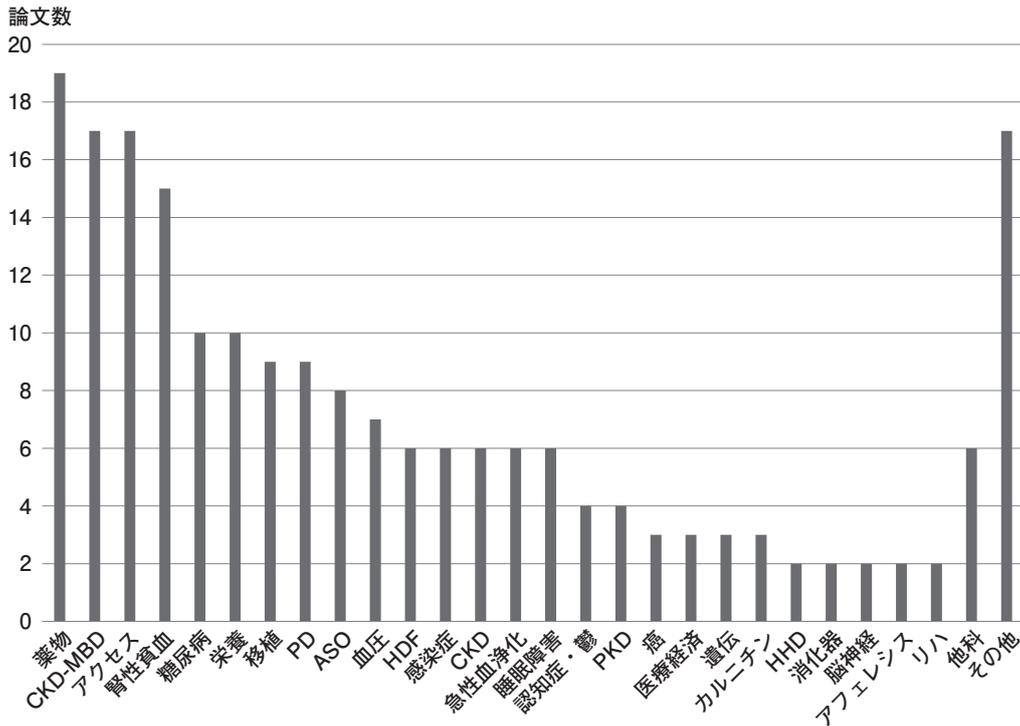


図1 「臨床と研究」に掲載されたテーマと論文数

ッセイをお願いし掲載している。支部だよりでは、各支部長にお願いして、持ち回りで各支部の現況といろいろな取り組みなどを執筆してもらっている。

日本透析医会で開催されたシンポジウムが掲載されていたが、2000年からは、毎年研修委員会で決まった「透析医療における Consensus Conference」(東京開催)と「透析医療における Current Topics」(2012年からは東京以外で開催)の講演内容を掲載している。2001年からは Consensus Conference ではそれぞれテーマに沿ったシンポジウムを、また Current Topics では、その時期に話題になっているトピックスの講演が掲載されている。

医会雑誌の別冊として、1997年には『施設のための在宅血液透析教育・指導マニュアル』、1998年には『安定期慢性維持透析の保険診療マニュアル(平成10年改定)』、2003年には『血液透析施設におけるC型肝炎感染事故防止体制の確立に関する研究』、2004年および2005年には『平成15年度厚生労働科学研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業』、2006年および2007年には、『平成17年度および18年度厚生労働科学研究補助金(医療安全・医療技術評価総合研究事業および日本財団助成事業)』を発刊している。2008年に『平成17~19年度災害医療支援船の実現化に向けての調査・運用訓練の実施』を刊行した。

おわりに

この日本透析医会雑誌は、日本透析医会のホームページにアクセスして出版物を開き、さらに日本透析医会雑誌を開くことにより、Vol.1から現在のVol.33, No.1まで閲覧できることになっている。非会員は直近発刊のものに限っては目次のみ、会員は全文をPDF

最新 ~ Vol.30	バックナンバー		目次	全文(会員のみ)
Vol.	No.	発行年月		
Vol.32	No.3	2017年12月(予定)	—	—
Vol.32	No.2	2017年8月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.32	No.1	2017年4月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.31	No.3	2016年12月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.31	No.2	2016年8月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.31	No.1	2016年4月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.30	No.3	2015年12月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.30	No.2	2015年8月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>
Vol.30	No.1	2015年4月	<a href="#">PDF</a>	<a href="#">PDF</a>

図2 日本透析医会雑誌へのアクセス画面

で閲覧できることになっている (図 2)<sup>‡1)</sup>.

このように、充実した雑誌に成長できたのも会員の先生方のご協力の賜物と改めて感謝申し上げますとともに、今後も会員の先生方にお役に立つように編集委員

一同努めてまいります。

**参考 URL**

‡1) <http://www.touseki-ikai.or.jp>